

◆国分寺市長期総合計画策定推進本部厚生部会・サロン（第2回） 要点記録

平成 23 年 11 月 17 日（木） 19:00p.m.～21:40p.m.

国分寺市いずみプラザ 2階講座室1～4

【出席委員】白石部会長，牛島副部会長，大平委員，阿部委員，小島委員，諸井委員，  
一ツ柳委員，水越委員，岡委員，立石委員，仲野委員，島崎委員，有賀  
委員，岡部委員 以上 14 名（欠席 秦委員）

【サロン登録者】22 名

【事務局】一ノ瀬，宮崎，近藤

【協議事項】

- 1 「計画分野3-1 児童福祉」について
- 2 その他

【配付資料】

資料2-1 長期総合計画策定推進本部厚生部会・サロン（第1回） 要点記録

資料2-2 国分寺市の人口推計（平成 23 年 10 月 1 日時点）

前回資料 1-3 のうち印刷が不鮮明だったページ（重点目標4-2②）の差し替え

協議の前に，今回から配席をサロン参加者と部会委員を分けずに交互に配置することとし，また，会議状況の写真撮影について御了承をいただいた。

【協議事項】

1 「計画分野3-1 児童福祉」について

部会長：資料1-3の計画分野「3-1 児童福祉」にかかわる 11 ページについて，サロン参加者の皆様の御意見をいただきたい。御発言の際には，「サロンの何々です」という形で名字を伝えてほしい。御発言はお一人2分以内に収めてくださるようお願いする。

42 ページ 地域子育てネットワーク

委員：児童福祉法に基づき，18 歳未満の子育て子育てにかかわる分野を対象に児童福祉施策を行っている。未就学児から高校生まで各年齢層の子どもにかかわるといふ視点でとらえていただきたい。就学前については，在宅で子育てされている方と保育園利用者とはおられ，それぞれを対象とした施策がある。資料3-1の記載事項のうち，「今後どうするのか」は，市の担当者が表した案という位置付けである。42・43 ページの施策は，在宅で子育てされている方への支援と対象とする。キーワードとして，親子ひろば，保育園，ガイドブック，ホームページ，ファミリーサポートセンター，子ども家庭支援センター，円卓会議

などが使われる。ネットワーク、情報提供、相談体制などについて表わしている。親子ひろばは数量的にはともかく内容的な充足が必要である。ガイドブックの作成は行ったが、ホームページに着手できていない。ネットワークについて、各者の連携が強化されつつある。今後は、国分寺駅・西国分寺駅・国立駅のそれぞれをベースとした拠点配置の必要性を掲げている。

参加者 : 親子ひろばについて、前回資料1-4を参照すると公園での利用者数が多い。42ページの記載は屋内で行う親子ひろばを想定していると考えるが、屋外実施の重要性を認識してほしい。また、子ども家庭支援センター事業等の充実を図る点について、こうした各拠点を個別でなく総合的に考えて、再構築を図ってほしい。ファミリーサポートセンター事業の22年度利用者数が減少しており、検証してほしい。

参加者 : ファミリーサポートセンターはシステムの利用しにくさがあり、手続的簡便さや低料金の設定を望みたい。

部会長 : 長期総合計画の後期計画に関する総合的な御意見をいただきたく、個別の事業についての御回答は、この場では行わないものとしたく、御了解いただきたい。

参加者 : 資料1-3の42ページ右側下段「子ども家庭支援センター」の行の「対応」に「施設の増設は、現在想定できないが」とあるが、その理由が知りたい。

委員 : 平成18年度の本計画策定時においては、小学校区ごとに親子ひろばを設置するという構想により、親子事業を行っている子ども家庭支援センターを現在地に残し、同センターが市の西側に偏在しているため、何かの施設整備の際にもう1か所併設整備する計画とし、指標2か所として位置付けられた。現状においては、財政的理由や子ども家庭支援センター併設可能な施設整備予定がないことから、「現在想定できない」とした。

部会長 : 後期総合計画については、現在の財政状況を念頭に置き、スクラップを前提に新規事業を検討するという基本的な趣旨がある。子ども家庭支援センターについては、長期総合計画の策定時に1か所増設としたが、前期経過時点で実現されず、現在の財政状況・施設整備状況から、後期においても整備を図る計画がないということである。

参加者 : 優先順位が低いということか。

部会長 : 市側から優先順位は申し上げられない。

#### 43 ページ 親の仲間づくり

委員 : 43ページは在宅子育てへの支援で、子育ての仲間づくりに関する施策である。キーワードは「交流の機会の増加」「利用者の拡大」「情報の共有・提供」である。異世代交流にも取り組み、更なる充実が求められている。

参加者 : 資料1-4で児童館の「親子の『わ』」事業の実施状況について参照したが、「親子ひろば」を充実させるのであれば、「親子の『わ』」の継続の必要性について検討する必要があると思う。

参加者 : 私も同様に再構築の必要があると思う。「親子ひろば」は毎日行われることが重要なので、児童館職員がひろば事業に対応できるようにすれば、毎日の事業実施が可能になる。「今後どうするか」の欄に「仲間づくりを支援する」とあって非常に重要なことだと思うが、この文言は大枠をとらえた表現であり、実際は

何が行われるのか知りたい。

部会長 : 事業の中で御意見を尊重する。

#### 44 ページ 手当助成事業

委員 : 44 ページは子育てへの社会的支援に関する施策で、経済的支援について表わした。国・都・市のそれぞれの制度があり、財政状況を考慮しながら継続する。

部会長 : 今後も維持するという事で御確認いただきたい。

#### 45 ページ 保育・療育サービス

部会長 : 45 ページは文字が読みにくかったため、本日差し替えページを配布した。

委員 : 保育園・学童保育所・療育施設の施設整備施策に関する部分である。学童保育所・児童館については、施設の老朽化・狭隘状況・耐震診断結果への対応に係る進捗状況を表わした。耐震補強は終了したが、老朽化と狭隘の解消は課題が残っており、多額の財政負担があるため、解消できる時期について危惧している。また、学童・児童館への要望として時間延長があげられ、現行予算規模をベースに実現させるために、今年度アウトソーシング実施計画を策定した。

委員 : 待機児解消のために新設保育園の整備を進め、今年度4園・来年度3園の開設計画となっている。耐震補強については対策を終え、1園は建て替えを行い平成26年度に開設する予定である。そのほかの園については、順次改築の年次計画を立てている。

参加者 : 市民感覚としては、アウトソーシングは事業拡充でなく縮小につながる印象がある。実態としてもアウトソーシングが拡充につながっていないと思われ、全体計画に反対の意見を持っている。現住市民の要望のほかに、国分寺駅北口の再開発計画もあり、将来の転入者からの保育園民営化に関する心配も考慮してほしい。保育園は民間委託できるものなのかという原点に帰って考えていただきたい。

参加者 : 地域の子育てネットワーク強化の「今後どうするのか」の欄に「地域のひろば」について記載があるが、「地域のひろば」と「親子ひろば」の関係がよくわからない。また、前回もお伝えしたが、子ども家庭支援センターやつくしんぼなど、相談機関の選択に迷うことがないようにしてほしい。

参加者 : 先日文教部会に出席して公民館事業について意見交換をした際に、「地域のひろば」との連携について説明があったが、「地域のひろば」の所管部署と、「地域のひろば」で何をしようとしているのか知りたい。ここねっとが小学校区にあるのに、「地域のひろば」を立ち上げた理由が分からない。

参加者 : 質問については個別に回答してから進めていただきたい。

部会長 : サロン参加者の御発言をいただいてから、総合的に回答・説明を行いたい。単一の問題点に集中して、話し合いが全体に及ばなくなってしまうと思う。

参加者 : 部会長が司会進行を務められるものであり、そうした進め方でよいと思う。

参加者 : 子育て施策の充実が目的とされているのに、なぜ委託の方向へ導かれるのかわからない。当初の計画策定期間にそうした説明はされていると思うが、理解できるようにしてほしい。民間委託が進められた後において、新たに導入される子育て支援事業の障害となるような心配もある。